

《研究課題名》

子宮内膜症に対する臍帯由来間葉系細胞を用いた新規治療法の確立

《研究対象者》

東大医科研臍帯血・臍帯バンク（IMSUT CORD）事業にご協力いただいた方

（１）研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2024年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 母子診療科 講師 辻 俊一郎

（２）研究の意義、目的について

《意義》

子宮内膜症は子宮外で子宮内膜組織が存在する疾患として定義され、生殖可能年齢の女性 5-10% に発症すると言われる頻度の高い疾患であり、疼痛と不妊を主な主訴とする。その病態には慢性的な炎症が深く関与する。現在、排卵抑制機能を有する低用量ピルやホルモン製剤などが、その治療法として確立されている。しかし、妊孕能を温存したまま子宮内膜症を加療する方法がないのが現状である。一方、ヒト臍帯由来間葉系細胞が抗炎症作用を有することが近年報告されている。そこで、これらの細胞を用いた新規治療法が確立されれば、妊孕能を温存したまま子宮内膜症を加療でき、また手術が困難な重篤な癒着を有する子宮内膜症を合併症なく加療することが可能となる。

《目的》

抗炎症作用を有するヒト臍帯由来間葉系細胞の子宮内膜症に対する有用性を検討すること。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

子宮内膜症を罹患したサルにヒト臍帯由来間葉系細胞を投与し、その効果を腹腔鏡にて観察し、その効果を判定する。

《利用する試料・情報の項目》

ヒト臍帯由来間葉系細胞は研究協力者である東京大学医科学研究所附属病院における臍帯血・臍帯バンク（IMSUT CORD 事業）で凍結保管した臍帯由来間葉系細胞を滋賀医科大学に輸送し実験に使用する。本研究では、東京大学医科学研究所附属病院を発送される際に細胞は匿名化（番号がついているだけ）がなされており、個人情報には性別・病歴等を含め扱わない。

《試料・情報を利用する者の範囲》

ヒト臍帯由来間葉系細胞は、滋賀医科大学の辻俊一郎、林香里、村上節、東京大学医科学研究所附属病院向井 丈雄、長村 登紀子が使用するが、個人情報は東京大学医科学研究所附属病院でのみ扱い、滋賀医科大学ではそれらの情報は扱わない。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

滋賀医科大学 母子診療科 辻 俊一郎

（４）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 母子診療科 辻 俊一郎

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2267

メールアドレス：hgyne@bell.e.shiga-med.ac.jp